

至学館大学

公募制一般推薦入試(前期)1日目

国語 出題意図

第1問 *評論文の読解能力を問う。(内田 樹『日本辺境論』)

問1 漢字力を試す問題。出題は、二字熟語の「上の漢字」と「下の漢字」それぞれと同じ漢字が使用されている別の熟語を選択する形となっており、熟語全体としての意味を大まかに暗記しているだけでは対応が困難である。(イ)「固有」、(エ)「連座」の正答率の低さに課題が残った。

問2～問6及び問8

傍線部分の説明として最も適切なものを選択する問題。

選択肢の違いを吟味する緻密な読解力の有無を試した。

問4に係る傍線部(3)には、受験生にはあまり馴染みのない「無言の言」という語句が含まれており正答率もあまり高くなかったが、傍線部の前後関係をよく読み、5つの選択肢を細かく比較することで正解にたどりつくことができるようにしたい。

問7 語句の意味を問う。(b)の「健気」は、耳にしない言葉ではないが意味を問われると案外答えにくい語句である。語彙力を高めるための地道な努力を求めたい。

第2問 *評論文の読解能力を問う。(吉田雅美「ルールはそもそもなんのためにあるのか」)問1, 5, 7は、筆者の主張や論理展開を正確に把握し、その根拠、因果関係、対比構造などを読み取る力を問う問題。

問2は、空欄に接続語を補充することで、論理の展開や文と文の関係が適切に理解できているか否かを問う問題。

問3は、カタカナを漢字に変換するにあたり、同音異字が含まれた選択肢の中から適切なものを選び取る問題。

問4は、文の流れや段落構成、論理の構造が理解できているかどうかを問う問題。問6は、文脈の中で語彙の意味を正しく理解できているかを問う問題。

至学館大学

公募制一般推薦入試(前期)2日目

国 語 出題意図

第1問 * 論説文の読解能力を問う。(帯木 蓬生著『ほんとうの会議
ネガティブ・ケイパビリティの実践法』)

問1 語の意味を捉えて文意に応じた漢字を選択する問題。文の意味と合わせて一語一語のもつ意味に対する意識を高くしてほしい。

問2 文脈を捉えて、適切な接続語を選択する問題。

問3・4 傍線部分の説明として最も適当なものを選択する問題。

文章の内容を的確に読み取り、選択肢の文を読み分ける力が求められる。問3の選択肢では、「回復させる要因」として文章中の「対話」について論じる内容を整理して読むことが求められた。問4では、傍線部分の「不確実さや～いることができる能力」を文章中に言い換えた表現を捉えることで解答できる。文章の内容を読み取ることに於いて、筆者の論点やキーワードを意識して捉えることが肝要である。

問5 日常的に使われる語を適切に用いて表現する問題。

問6 筆者の考えを表現するために適当な語を選択する問題。文章表現における論理や因果関係を的確に捉えて、筆者が考えを表現するための言葉の意味を十分に理解できる必要がある。

問7・8 文脈を捉えて適当な慣用句、文を選択する問題。

問9 文章における主張や論拠など情報と情報との関係を的確に理解できるかを捉える選択肢の問題。文章を丁寧に読み取ることによって解答は難しくない。

第2問 * 評論文の読解能力を問う。(前野ウルド浩太郎『バツタを倒しにアフリカへ』)

問1 漢字問題。文脈にあてはまる適切な語を思いつき、該当する漢字を選択させて、総合的な語彙力を試している。

問2～問4、問6～問7 傍線部分の説明として最も適当なものを選択させる問題。本文全体からヒントを集め、紛らわしい選択肢を消去する必要があり、総合的な読解力を試している。

問5 語句の問題。文脈から「理に適う」という語句を選択させて、語彙力を試している。

問8 複数の文章を関連させながら解答させる問題。筆者の研究姿勢が、5人の学生の意見というかたちで述べられており、文章全体の趣旨を理解して、最も適当な選択肢を選ぶ必要がある。思考力の必要な問題である。

第3問 * 四字熟語の知識を問う。

日本社会のコミュニケーションにおいて使用される四字熟語の知識を問う。正答率が高く、基本的な知識の定着が見られた。